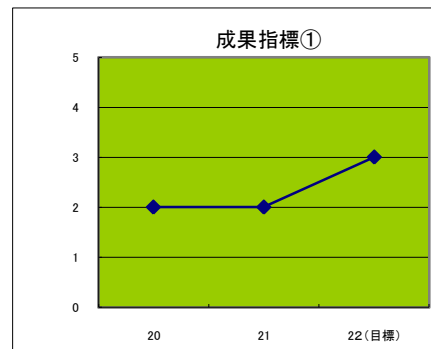
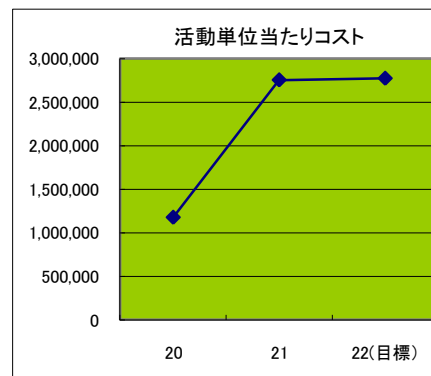


事務事業名		百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	5	市民文化・芸術		項	5	社会教育費
	施策の方向	(1)	歴史的資源を活かしたまちづくりの推進		目	4	文化財保存事業費
関連する計画等				事業	76	世界遺産登録推進	作成部署
対象(誰を・何を)				教育委員会事務局生涯学習室社会教育課(世界遺産登録準備室)			
古市古墳群				連絡先			
意図(どういう状態にしたいのか)				072-958-1111 内線 4481			
事業の内容				大阪府・堺市・藤井寺と共同で古墳群を世界文化遺産への登録を目指し、「百舌鳥古市古墳群世界文化遺産登録推進府市合同会議」を設置し、事業の積極的な推進や普及・啓発を行う。平成22年6月には世界遺産国内暫定リストへの登載が決定されたが、文化庁より示された課題の解決を図る。主に、①コンセプトや普遍的価値の証明の精査 ②資産の取捨選択 ③緩衝地帯の設定 ④古墳周辺を含めた保存管理計画や景観計画の策定などの課題を検討しつつ、市民の気運の醸成を図り、世界遺産へ向けた推薦書を作成する。			
根拠法令等							
事業開始時期				☐ 昭和 18 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている			
事業開始時からの状況変化				社会教育課内に世界遺産登録準備室を設置し、事業の推進を図るため、4者による百舌鳥古市古墳群世界文化遺産登録推進府市合同会議及び藤井寺市との古市古墳群世界文化遺産登録推進連絡会議を設置。			
市民や議会の要望				議会では羽曳野市が誇る古墳群を世界遺産への登録を積極的に進めるようにと意見がある。			
実施手法				☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()			
委託先				委託内容			
☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他							

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		316	933	1,418
人件費【2】 (千円)		2,040	4,575	6,900
職員数	正規職員	0.20 人	0.49 人	0.80 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.30 人	0.50 人	0.50 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,356	5,508	8,318
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	2,356	5,508	8,318
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 世界遺産登録まで進捗度合	件	2	2	3
② 合同会議	回数		2	
③ 有識者会議	回数	5	7	
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		1,178,000 円	2,754,000 円	2,772,667 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		20 円	46 円	70 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名	単位	指標設定の考え方	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	① 世界遺産登録までの進捗段階(式)	段階	①文化庁へ提案(申請)②文化審議会③日本の世界暫定リストに登録④世界遺産委員会に推薦書の提出⑤世界遺産登録	目標 3 実績 2	3 2	達成率(%) 66.7%
	② (式)			目標 実績		達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録により、古墳の保全を行い、市民が市内の貴重な歴史遺産への認識を高める。
		○						○			

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	日本を代表する巨大な古墳をはじめ、市内において現存する古墳が含まれることから、これらが世界遺産登録されることにより一層の保全が図られる。また、登録された他の例を概観すると、歴史遺産を活かしたまちづくりに貢献し、副次的に観光等でまちの活性化となる施策へつなげることもできる。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☐	☐	☒	
	社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☐	☒	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	4者で開催する有識者会議により古市古墳群の該当性などを審議しており、効率は良い。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☐	☒	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	世界遺産へ登録されることになると、本市が誇る歴史的遺産を活かしたまちづくりへの貢献度は非常に高い。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☒	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	提案書の概要版を配布すると共に、ホームページで提案書の内容を開示している。一方、市民団体により世界遺産を期したフォーラムやウォークなどの自主事業が開催されており、一定の協働で図られている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	国内暫定リストへ搭載され、市民の気運の醸成を図るためのシンポジウムなどの取り組みも積極的に実施している。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☐	☒	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	市民の要望や協働できる部分もあり、羽曳野市のまちづくりには欠かせない事業であり、今後は積極的に拡大を図るべきと考える。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 革 本 部 評 価	庁内での組織体制を整え関係部署との連携を図り、事業を積極的に推進していく。	
	総合評価	
	評価理由・意見	
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	